

## ●制度（案）の基本事項について

## 《検討項目および意見一覧》

検討項目	内容	意見交換会等における意見（○：肯定的 ▲：否定的 □：その他）	検討のポイント
1. 本市の現状と課題	(1) 地域の絆力の低下 (2) 人口減少と少子高齢化  将来、行政の力だけでは「安心して暮らし続けられる地域づくり」を行っていくことが難しくなっていくと予想されます。	○少子高齢化の進行により助け合いが必要であること意識付けが必要。 ○少子高齢化の時代に地域の繋がりが重要。 ○高齢化により日常のゴミだし等の問題が生じてきている。解決策が必要。 □今は、必要性を感じないが、将来は必要な組織になると思う。 □市民の意識を変えることは難しい。	本市の現状と課題の確認
2. 設立の目的	(1) 地域の絆力の向上 (2) 少子高齢化社会への対応（地域課題）  地域で助け合う・支えあうための新しい仕組みをつくりたい。	○財政状況が良い今のうちから対応することはいいと思う。 ○助け合うことの重要性を子どもたちにも感じてもらうといい。 ○多くの人に参加する仕組みが必要。 ▲目的が漠然としていて必要性を感じない。 ▲当区においては、様々な活動を実施しているため必要性を感じない。 ▲既存組織を強化し、区の中の連携を強化した方がいい。 ▲二重になる。屋上屋をつくるようなもの。 ▲地域の負担が増える。 □他市でやっているからではなく、真の目的を表明してほしい。	設立目的の明確化と必要性の確認
3. 設立の効果	(1) 意識高揚 地域のことを話し合い、知ることによって地域への誇りや愛着心を醸成します。  (2) 相互補完 地域を支える各種団体・個人が助け合い、力を合わせることで相乗効果を生み出します。  (3) 課題解決 区(自治会)よりも一回り広域で、効果的・効率的に地域活動を展開していきます。	○区単位では出来なかったことや同じような行事を統一できる可能性がある。 ○他地区、他団体との情報共有・交流が期待できる。 ○地域も縦割りになっている。横の連携ができるようになる。 ▲必要性は感じるが、現実には難しい。 ▲近所の人が近所の人を支援することは難しい。 □地域協議会が設立されたら課題が解決できるのか疑問。 □高齢者への必要性が目立っている。子育て世代のメリットも考えてほしい。	設立の効果の確認
4. 組織の単位	小学校区を基本（16地区） 範囲が分かりやすく、子どもを核に三世代のつながりが期待でき、小学校との連携が図りやすい。	○子ども会は、既に小学校区単位で会議をしているので小学校区でよい。 ○区が細分化されすぎており、6地区と129区の間くらい規模で、やれることからやればよい。 ▲三ッ淵学区コミュニティ推進協議会や西部・南部コミュニティ運営協議会と重複する。 ▲広範囲になると地域が希薄化する。 ▲地域の課題が小学校区では異なる。 ▲小学校は範囲が広すぎる。（小回りが利かない。顔も知らない人たちが集まって一緒に活動することはできないと思う。） □単位を明確にしてほしい。 □区と小学校の境界が一致していない。負担が増えないようにするため129区がどこか一つの小学校にそれぞれ所属するように市で決めて欲しい。地域に決めさせることはやめて欲しい。	地域協議会の目的達成にふさわしい組織単位の検討
5. 組織のイメージ	(1) 各団体との関係 地域を支える様々な団体が参加し、地域の情報を共有します。  (2) 組織体制 各団体・個人が地域課題の分野毎に部会を組織し、地域活動の企画をします。	○高齢化が進むことを考えると新しいことを考える必要がある。 ○運営（既存事業）のマンネリ化の打破。 □他の既存組織との調整が必要。 □若者と高齢者の交流の場が少ない。 □子ども会、老人会が地域にない。	地域協議会を構成する団体・個人、および組織体制のイメージの共有

検討項目	内容	意見交換会等における意見（○：肯定的 ▲：否定的 □：その他）	検討のポイント
6. 役割	(1)地域づくりミーティング開催 各団体・個人の意見交換の場を作ります。 (2)地域ビジョンの策定 地域の将来像や課題解決の方策を取りまとめ、地域全体で共有します。 (3)地域づくり事業の企画・実施 ●課題解決型（地域活動） ●交流促進型（イベント）	○地域課題の掘り起こしや解決に向けて有効であると思う。 ○個人の困りごとを助けるような活動ができるといい。 ▲区は、3あい事業を中心にうまく回っている。既存の3あい事業を重視すべき。 ▲世代を超えた議論が難しい。 ▲既に地域で様々な活動をしているため負担が増える。 □地域課題を自ら考え、自ら行動して解決する組織というものが理解できない。 □役割を具体的にしてほしい。 □新しい組織を作れば負担が増える。交流促進型は真に必要と思えない。課題解決型に限定したほうがいい。 □課題解決型でも高齢者の生活支援に特化したほうがいい。 □他の事業との重複を整理する必要がある。	地域協議会が担うべき役割の検討
7. 区(自治会)との関係性	(1)広域効率業務 区より大きな単位で取り組んだ方が効率的な活動は地域協議会が担います。 (2)狭義有効業務 区の単位で取り組んだ方がきめ細かに対応できる活動は、従来どおり区で担います。 ※従来の区のあり方について、変更を求めようとするものではありません。	▲区が地域協議会の下請け機関になる心配がある。 ▲区を強化すべき。 □区を含め既存組織と重複する部分もあり、整合性が難しい。 □区、区長の負担軽減を検討すべき。 □広域効率業務と狭義有効業務の具定例を示して欲しい。 □地域協議会が主体で区がそれに従うことがないように区と地域協議会の役割分担を明らかにすべき。 □地域協議会は、現在の区の事務を再編整理してから導入すべき。	区と地域協議会の役割分担の検討
8. 地域協議会への支援	(1)財政支援 (2)市職員の派遣 (3)活動拠点と事務員	○事務局設置は重要。 □地域で使いやすい補助金の仕組みを検討してほしい。 □市の人的サポートの充実を望む。 □行政が中心になってリードしてほしい。 □補助金など手続きの簡素化を検討してほしい。	財政支援、市職員の派遣、活動拠点や事務員の必要性 各支援の内容や方法の検討
9. 委員の選出等	地域協議会が区や子ども会、老人会など様々な団体と連携・協力し、地域の住民が参加できる委員構成とします。	○元気な高齢者の人材発掘の可能性がある。 ▲現状でも役員の手が足りない。これ以上の委員を選出できない。 ▲人材不足で同じ人が複数の役員を兼任せざるを得ない。 ▲同じ人が何年も続けることになる。 ▲高齢者ばかりでは上手くいかない。 ▲働き世代は、時間がないため役員をやることは大変。 □継続して活動できる中心にならないと運営できない。 □役員交代が激しいため継続的な活動が難しい。 □区長会の延長のような組織にならないようにメンバーを検討してほしい。	地域協議会が活発化するための委員選出等の検討
10. 地域活動ポイント制度	地域協議会が実施する各種活動の協力者の励みになるような制度を導入します。	○人材発掘の可能性がある。 ○何か手伝いたいと思っている高齢者はいると思う。 ▲地域でボランティアを募集しても協力者がいない。 □人材が集まるか疑問。 □高齢者しか集まらないと思う。	地域協議会への参加意識を高める方法等の検討
11. 規約	(1)全地域共通ルール (2)各地域個別ルール	□子ども会の加入、未加入で不公平感がある。	地域協議会共通ルールと個別ルールの検討
12. その他検討事項	(1)備品購入について (2)車両の取り扱い など	□個人情報についての考え方が地域活動のネックになっている。	その他、地域協議会の共通ルールとすべき事項の検討
13. 設立スケジュール	全地域での設立を目指しますが、機運が高まった地域から順次、設立していきます。	□モデル地区が鍵になる。 □市民に対する周知が必要。 □できることから実施すればいい。 □時間をかけて検討することが重要。	設立までの流れの検討